



東京海上日動

令和8年度「ちよエコ未来企業スクール」のご案内

テーマ：脱炭素は目的ではなく手段。目的は「経営力強化」などビジネスメリット創出。
負荷を増やすのではなく、無駄をなくして事業強化に繋げる！

2026年4月

一般社団法人千代田エコシステム推進協議会
千代田区
東京海上日動火災保険 株式会社

地域として目指したい姿：啓蒙だけでなくアライアンス形成して地域全体で活性化

千代田区・千代田エコシステム推進協議会

啓
発

個人向け宣言事業
(ちよエコヒーロー)

企業向け宣言事業
(ちよエコ未来企業)

アクション化

アクション化

行
動

千代田エコシステム認証
(環境配慮行動のPDCA)

Eサイクルちよだ
(再エネ導入)

削減目標の実行を
助ける簡易的な伴走ツール

削減目標の達成に
最も大きく貢献する手段

地域アライアンス

継続した
勉強会・交流会

ちよエコ未来企業スクール
【削減目標の策定】

地域企業の脱炭素化支援
【参加企業/支援組織から相互に】

協働プロジェクト創出
【卒業生や支援組織とコラボ】

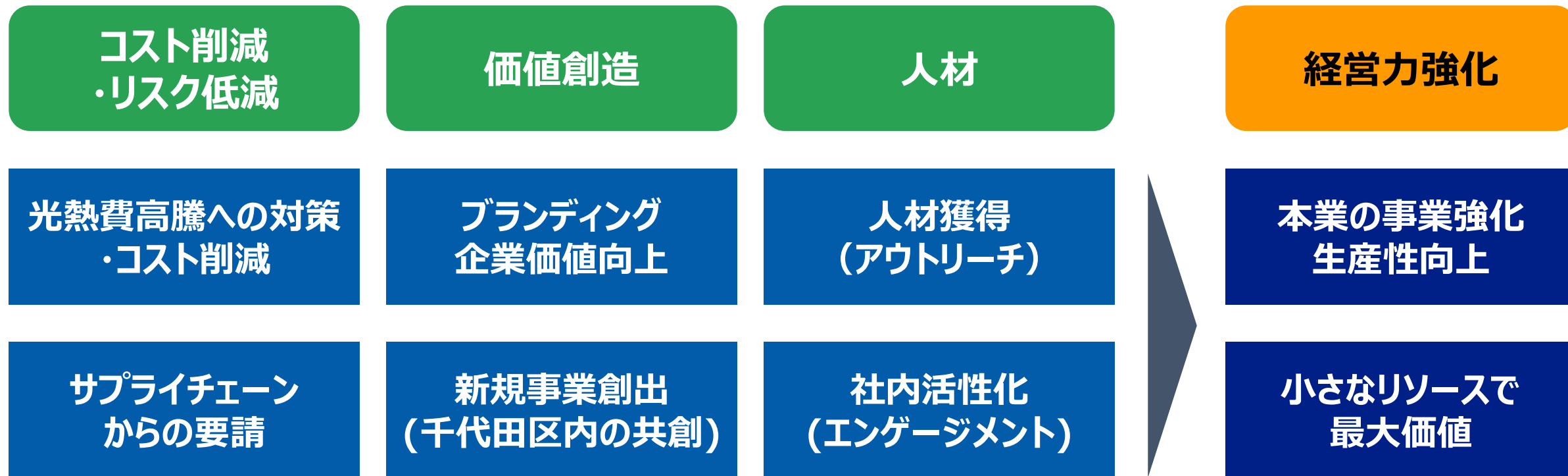
発信・記者会見
【千代田区内外への認知獲得】

脱炭素経営
支援体制
(CES会員)

千代田区 / 東京海上日動火災保険 / 東京商工会議所 千代田支部 / 三菱UFJ銀行 / まち未来製作所
千代田区商店街連合会 / 大丸有環境共生型まちづくり推進協会 (エコツェリア協会) / 山善
千代田区キャンパスコンソ / アークエル / 三井物産 / 三井物産パッケージング / メンバーズ

「ちよエコ未来企業スクール」の提供価値

脱炭素経営が、コスト削減やリスク低減だけでなく、
ブランディング効果や人材獲得、事業価値創造に繋がることを事例を交えながら学んでいく連続講座。



↪ 目的は企業の生産性向上や経営力強化であり、脱炭素は手段として活用する。

01 コスト（光熱費・燃料費）の低減

GXへの取り組みでエネルギーを多く消費する非効率なプロセスや設備を更新

【事例】株式会社 登米プラス 様（宮城県、精密加工業）

省エネ診断を実施

- …各機器の消費電力確認
- …「電力の見える化」も実施

電力を消費していたのは「コンプレッサー」ということが判明



▲測定時に使用したCTロガー（クランプ式）



▲測定時の様子

従来

- コンプレッサーの吐出圧力 0.7MPa
- コンプレッサーの排熱未利用
- デマンド装置なし

改善後

- 【運用改善】コンプレッサーの吐出圧力 0.65MPa（▲142千円/年）
- 【運用改善】排熱ダクトを設置（吸い込み温度の低減）
夏は外に排熱、冬は排熱で足元の暖房に（▲371千円/年）
- デマンド装置設置 電力の使用状況を監視、無駄な電力消費を抑制（▲311千円/年）
- エアブローガンの減圧のための減圧弁の取付（▲361千円/年） 他

取組み効果

コストをかけない省エネだけで約51万円の削減

02 社員のモチベーション向上や人材獲得力の強化

気候変動という社会課題の解決に対して取り組む姿勢を示すことによって、社員の共感や信頼を獲得

【事例】サンコーエンジニアリングプラスチック株式会社 様（京都府）

ステップ①「節電プロジェクト」

- 経営者と従業員と一緒にプロジェクトメンバーに
- 電力使用量と支払い料金を全員に周知
- 従業員の提案を取り入れ、機材手配や記録管理を実施

⇒電気使用量 3 割削減

ステップ②「節電」から「脱炭素」へ

- 節電プロジェクトメンバーの「営業車から排出されるCO2が気になる」という一言
- 電気からCO2計測へ、計測にはソフトウェアを活用
- 2024年に**中小企業版SBT(※)**に認定

(※) 国際イニシアティブSBTiに科学的知見と整合した目標を設定することを支援し、適合していると認められると認定

取組み効果

「やってよかった環境経営」人材確保と人材育成に成果が

- ✓ 若い従業員に「会社をよくしよう」という意識が拡がりつつある
- ✓ やればできるという**成功体験が、社内の他の取組にも反映**
- ✓ プロジェクトでも女性従業員が活躍。取引先から「最近、御社の雰囲気よくなりましたね」とお褒め

03 競争力・取引機会の強化

(売上・受注への影響)

脱炭素対応は努力目標ではなく、 「取引条件」になりつつある

- ・大企業やグローバル企業では、SBT対応が事実上必須
- ・SBTでは、サプライチェーン全体の排出量把握・削減が必要

企業名	セクター	排出量削減目標の設定対象
大和ハウス工業	建設業	サプライヤーの90%
住友化学	化学	生産重量の90%に相当するサプライヤー
第一三共	医薬品	サプライヤーの90%
ナブテスコ	機械	サプライヤーの70%
大日本印刷	印刷	購入金額の90%に相当するサプライヤー
イオン	小売	購入した製品・サービスによる排出量の80%に相当するサプライヤー
ジェネックス	建設業	購入した製品・サービスによる排出量の90%に相当するサプライヤー

サプライヤーにも排出量把握・削減の要請が増加
→GXへの取組みが将来の取引・受注に影響

【参考】SBTの基本要件（必須事項）

- GHGプロトコル企業基準に則った、企業全体（子会社含む）のScope1,2排出量をおさえる必要がある。（Scope1,2排出量の5%まで（実績と目標の両者）を除外してもよい。ただし、除外の理由については説明が必要。）
- Scope3排出量がScope1,2,3を合わせた量の40%以上を占める場合、Scope3目標の設定が必要。また、天然ガスやその他化石燃料の販売や配送に関わっている企業は、自社の合計排出量と比較した排出量比率に関係なく、販売した製品由来のScope3目標の設定が必要。
- Scope3目標は、GHGプロトコル企業バリューチェーン（Scope3）算定報告基準に則り、Scope3全体の少なくとも2/3をカバーする、排出削減目標とサプライヤー/顧客・エンゲージメント目標のいずれかまたは双方の併用で、設定する必要がある。

04 会社の知名度や認知度向上

自社HPへのGXの取組み内容の掲載やメディアへの掲載

【事例】株式会社 和光 様（川崎市、クリーニング業）

経営ビジョン → 地域貢献

脱炭素化 → 地域・社会貢献の一環

次世代にきれいな地球を残していくべく取組み

取り組んだこと

- 川崎市の補助金を活用し、工場・店舗に**LED照明を導入**
- 店舗の**ガラスに遮熱フィルム**を施工。眩しさの軽減とともに、空調の効きも良くなり、従業員の働きやすい環境づくりを推進。災害時のガラスの飛散防止にも寄与

取組み効果

ブランディングによる人材確保に成功

- ✓ 自社ブランド化が図られ、若年層のパートアルバイトの応募が増加
- ✓ 脱炭素化・SDGs等に関する取組みの実施が、良質な人材の確保につながっている。
- ✓ 日本格付け研究所より、横浜銀行が和光に対して実施するポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合しているとの評価を受ける

「ちよエコ未来企業スクール」の概要

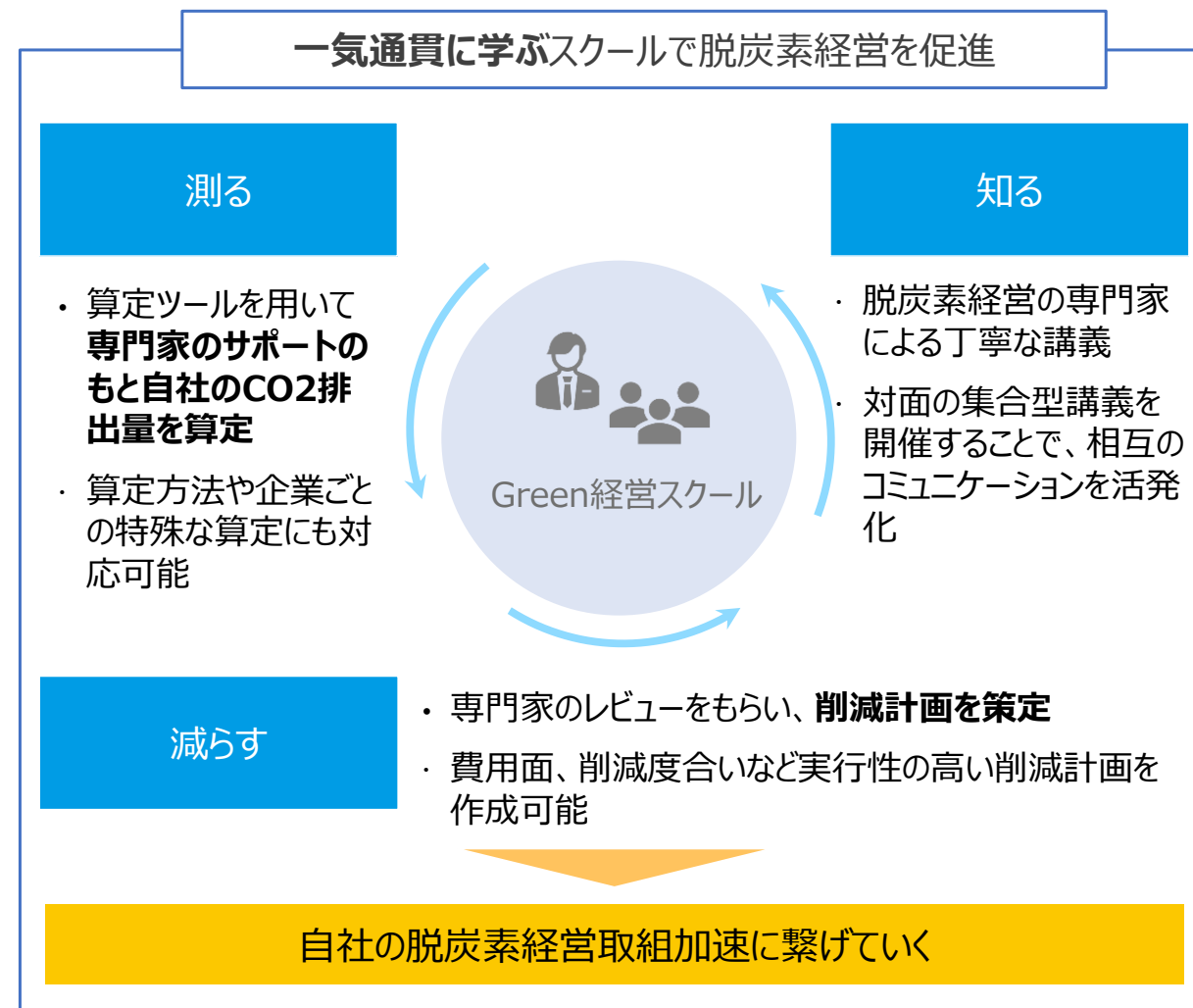
脱炭素経営の取組みにあたり、温室効果ガス（GHG）排出量可視化から計画策定を支援します！

【背景】

世界規模で進む脱炭素社会の実現に向けた動きを的確に捉え、企業の皆様にもこの流れをビジネスチャンスの拡充や競争力の向上につなげていただくきっかけとしてR7年度より「ちよエコ未来企業スクール」を開講しております。

【内容】

脱炭素経営に関する座学に加え、ビジネスメリットを体感できるワークショップや伴走支援があります。企業同士の取組共有を交えながら、**終了時には「削減計画」というアウトプットが出来る、効率的で実践に繋がる講座**です。スクール終了後も自社で取組継続・促進していただけるようなプログラムです。



従来のセミナーと「ちよエコ未来企業スクール」の違い

よくある脱炭素関連のセミナー

多くの参加者に効率よく伝えるのには最適だが…

セミナー内容に課題

- ・大勢の知識・意欲レベルに合わせるため、**広く浅い内容**になり、具体的な脱炭素への取組方法や削減計画をイメージしにくい

継続性に課題

- ・仮に取組意欲が高まったとしても、業務多忙や時間とともに下がる意欲で**結局動き出せない**

結果

脱炭素経営に向けた **具体的なアクションに繋がづらいことが多い**

脱炭素経営スクール

参加者を絞った実施

- ・個別にサポートが受けられ、理解度も深めながら進めることができる
- ・**地域内に先行事例を創出する**

一気通貫で伴走型の支援

- ・**排出量測定から削減計画策定**まで、伴走型で一気通貫の支援が可能
- ・その場でワークを実施することで**具体的な取組イメージ**を持ちながら理解が進む

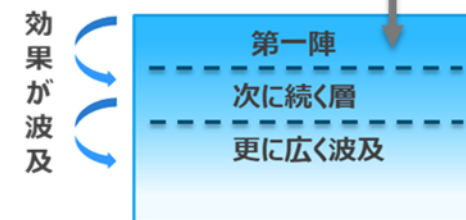
結果

削減計画にもとづいて、**事業者の脱炭素経営への取組が具体的に進む！**

さらに **地域全体への効果**



先行事例



- 先行事例により他企業が取組イメージを持ちやすい
- ただし、**波及させる仕組みづくりが重要**

R8年度「ちよエコ未来企業スクール」プログラム案

開催回	日時	アジェンダ
事前準備	8月末まで	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ診断申込 & 実施、e.CYCLE CHIYODAのシミュレーション申込
第1回	11月5日(木) 15:00~17:30	<ul style="list-style-type: none"> 【座学】千代田区地域アライアンス・本スクールについて 【座学】脱炭素経営の基礎 【座学】千代田区の現状（施策、補助金） 【ディスカッション】自社が脱炭素経営に取り組む理由
第2回	12月3日(木) 15:00~17:30	<ul style="list-style-type: none"> 【座学】GHG排出量の考え方と算定方法 / Scope3の基礎 【演習】GHG排出量の算定（Scope1,2） 【卒業生講演】自社の脱炭素経営の取り組み
第3回	1月14日(木) 15:00~17:30	<ul style="list-style-type: none"> 【座学】目標設定の考え方、方法・施策の紹介（「e.CYCLE CHIYODA」など） 【演習】施策検討・目標設定 【卒業生講演】自社の脱炭素経営の取り組み
第4回	2月9日(火) 15:00~17:30	<ul style="list-style-type: none"> 【卒業生講演】「千代田エコシステム認証（CES認証）」活用のすすめ 【座学】各社の削減目標・施策について講師よりフィードバック 【ディスカッション】各社の削減目標・施策について意見交換
報告会	3月1日(月) 15:00~17:30	<ul style="list-style-type: none"> 各社の削減目標・行動宣言

卒業生講演

再エネ導入
シミュレーション

削減目標の
策定

※プログラムは現時点の暫定版です。

※期間中、排出量算定のためのデータ入力フォローや削減策のアドバイスを必要に応じてオンラインにて実施します。

※スクール後に任意の懇親会を実施し、企業同士の交流の機会を設ける予定です。

(参考) R7年度「ちよエコ未来企業スクール」

全4回：2025/11/6、2025/12/3、2026/1/15、2026/2/16

11社

スクール参加企業

- 株式会社日比谷花壇
日比谷公園本店
- 株式会社三葉ホールディングス
- 株式会社サンテック
- 上野硝子工業株式会社
- 株式会社リーテム
- 株式会社ゼニス・アドバン
- 株式会社久保工
- 株式会社イービーシー商会
- 株式会社エフエム東京
- 株式会社池田理化
ほか

7組織

支援組織

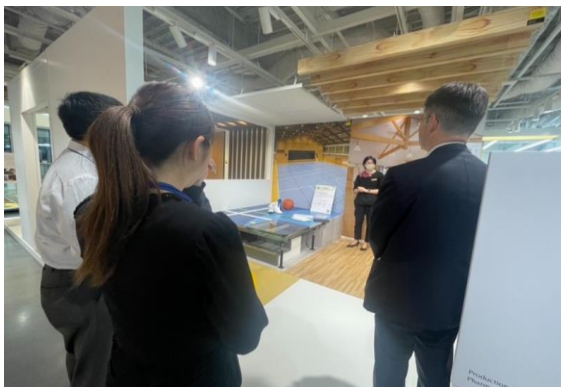
- 千代田区
- 東京海上日動火災保険
- 東京商工会議所 千代田支部
- 三菱UFJ銀行
- まち未来製作所
- 千代田区商店街連合会
- エコツツエリア協会(大丸有環境共生型まちづくり推進協会)



開催回	日時	アジェンダ
第1回	11月5日 15-17時	<ul style="list-style-type: none">● 脱炭素経営の基礎知識● 千代田区の仕組みと支援● 自社が脱炭素経営に取り組む理由の整理
第2回	12月3日 15-17時	<ul style="list-style-type: none">● GHG排出量の考え方と算定方法● 【演習】GHG排出量の算定 (Scope1,2)● 【演習】エネルギーフロー図の作成
第3回	1月15日 15-17時	<ul style="list-style-type: none">● 目標設定の考え方、方法、目標設定演習● 施策ロードマップ/削減計画策定の考え方● 【演習】計画策定・目標設定 (e.CYCLE CHIYODAの紹介)
第4回	2月16日 15-17時	<ul style="list-style-type: none">● 脱炭素経営を成功させる要素～先行事例より～● 「千代田エコシステム (CES)」を使ったPDCAの回し方● 行動宣言

(参考) R7年度「ちよエコ未来企業スクール」～ スクール外での交流会 ～

2025年12月
イービーシー商会様 ショールーム見学



2026年2月
リーテム様 東京工場見学



- ・参加企業同士の対話を通じて、新たな気づきや視点を獲得の機会
- ・共創の可能性を探るワークショップも取り入れています

R8年度「ちよエコ未来企業スクール」 募集要項

【開催概要】

対象：千代田区内に本社または事業所を持つ中堅・中小企業

定員：10社程度

参加費：無料

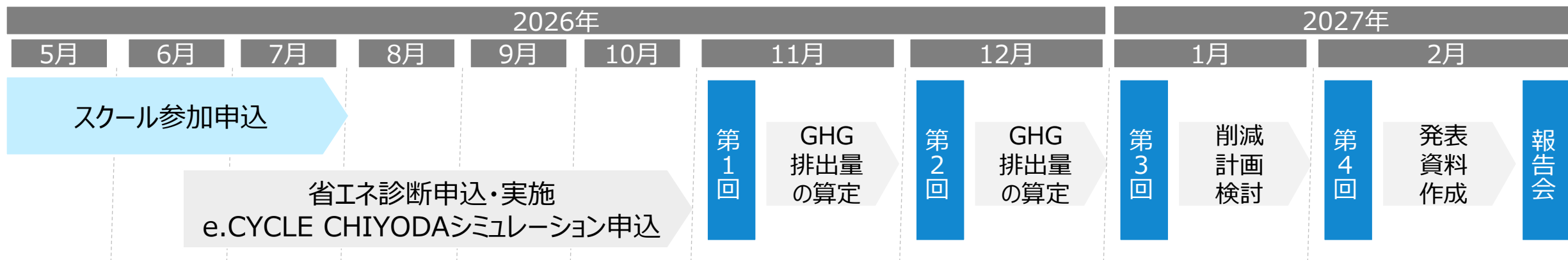
※全4回にご参加いただくことを基本としています。

※経営者＋実務担当者の2名に参加いただくことを想定しています。各社の状況に応じて柔軟に対応いたします。

参加申込は
こちら



【スケジュール】



(参考) 演習イメージ

脱炭素の基礎知識

脱炭素の進め方

環境経営に向けた情報開示制度

Scope1~3の計算方法

脱炭素戦略策定

4. 脱炭素経営の基礎知識 サプライチェーン排出量の整理 (まずはこれだけ！)

事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量。原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと。

Scope 1 排出量 + Scope 2 排出量 + Scope 3 排出量 = サプライチェーン排出量。

Scope 1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope 2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope 3 : Scope 1、Scope 2 以外の間接排出 (事業者の活動に関連する他社の排出)

グリーン・バリューチェーンプラットフォーム(環境省・経済産業省)
(https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/supply_chain.html)をもとに東京海上日動にて作成

- 脱炭素の基礎知識からスコープの考え方、GHGの削減方法を具体例を交えながら学ぶ
- 参加者同士の意見交換なども実施

4. 脱炭素経営の基礎知識 カーボンニュートラル経営とは

自社のカーボンニュートラルを進める + カーボンニュートラル関連のビジネスを構築する + 自らの取り組みを開示する

排出量測定 → 戦略策定 → 実行運用

新製品・サービス開発 | 他社に先行したカーボンニュートラル対応 | イノベーション | 課題(ベインポイント)の発見 | 課題の解決

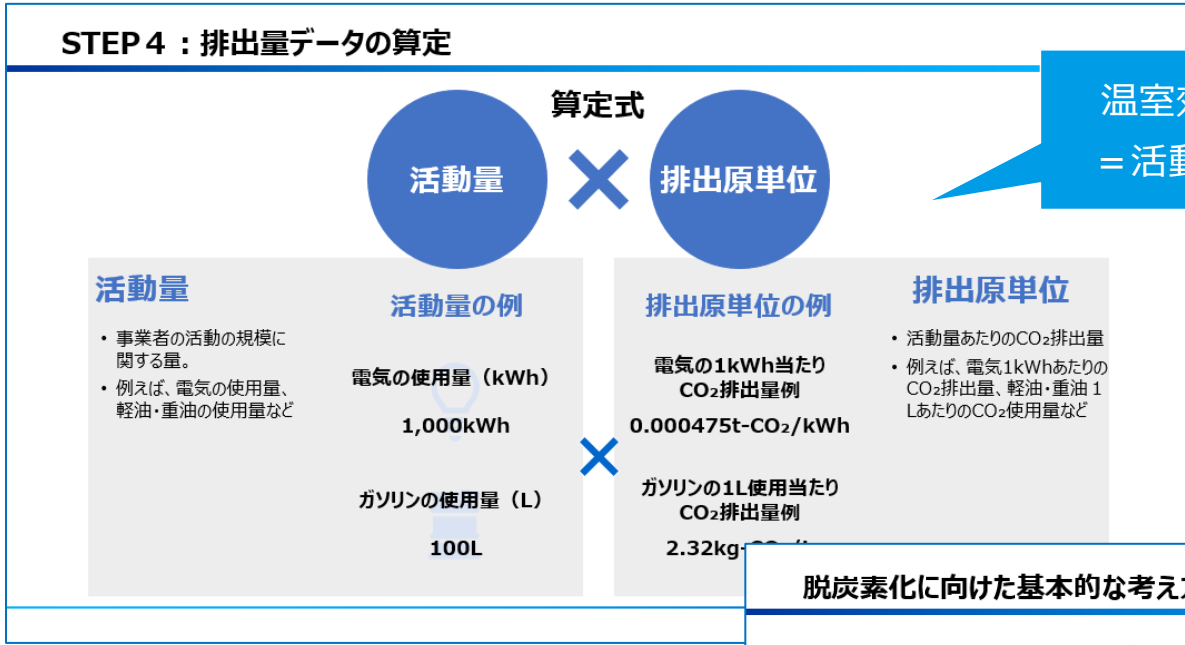
モビリティ | グリーン | 再エネ | フード | リサイクル

IFRS S1/S2 | 旧 TCFD | CDP | SCIENCE BASED TARGETS | 再エネ100宣言 | RE100 EP100 EV100 | CLIMATE GROUP

TOKIO MARINE NICHIDO 22

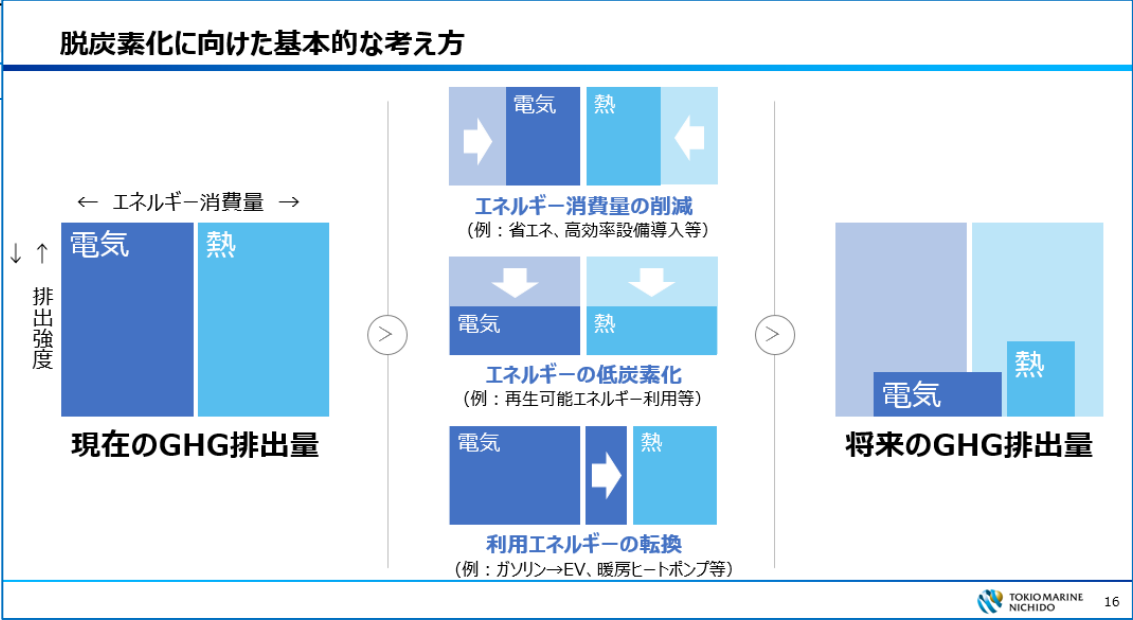
(参考) 演習イメージ

- 脱炭素の基礎知識
- 脱炭素の進め方
- 環境経営に向けた情報開示制度
- Scope1~3の計算方法
- 脱炭素戦略策定



温室効果ガスの排出量
= 活動量 × 排出原単位

- 排出量の算定に関して、参加企業さまの実際の電気や燃料の使用量などを用いて排出量を算定する
- そして具体的な削減計画策定する



(参考) 演習イメージ

東京海上スマートGX社が提供する排出量可視化ツール「カーボンモニター」

本スクール内のGHG 排出量の算定演習では、東京海上スマートGX社が提供する排出量可視化ツール「カーボンモニター」を無償で利用可能。

スマートナビ カーボンモニター

「見える化」の一步先へ。
脱炭素化の最適策までご提案。



GHG排出量登録画面

The registration form for GHG emissions includes the following fields and options:

- 算出対象: A重油
- 車両用 (省エネ法対象外)
- 使用量: 0 kL
- 排出原単位: 2.75 t-CO2 / kL
- 算出対象の詳細: 区分1: 燃料 (都市ガスを除く) の使用, 区分2: -
- 排出活動: A重油
- 最終更新情報: 最終更新者: 管理者, 最終更新日: 2025-05-16 13:57
- メモ: 活動についての備考や共有事項等を記入できます。

カーボンモニターの特長

- ・ **クラウド型サービス**
PCとインターネット環境があれば、いつでもどこでもアクセス・更新が可能
- ・ **使いやすいUI/UX設計**
操作に迷わない直観的かつ見やすさを重視した設計
- ・ **データ入力の柔軟性**
① 手動入力 ② コピー機能 ③ Excelインポート・エクスポート機能

(参考) GHG排出量算定までの主な流れ

算定項目の洗い出し

- ・ Scope1、Scope2に該当する項目を確認。
- ・ 算定対象項目の具体例
 - Scope1
 - 都市ガス、重油、軽油、ガソリン
 - Scope2
 - 電気、蒸気

場所	Scope	項目
本社	Scope1	都市ガス
		LP ガス
		ガソリン
工場 A	Scope1	都市ガス
		ガソリン
		重油
	Scope2	電気 ○○電力株式会社 △△プラン
		蒸気
工場 B	Scope1	都市ガス
		ガソリン
		重油
	Scope2	電気 ○○電力株式会社 △△プラン
		蒸気

図1. 参考例

データの集計

- ・ 洗い出した算定対象項目に沿って**使用量**データを集計する。
- ・ 請求書などの明細データから使用量を月毎に集計する。
- ・ その際、複数拠点ある場合は、データの集計も拠点ごとを実施する。

月	日	依頼番号	商品名	数量	金額 (税込)	備考
6	3	0085	レギュラーガソリン	1200	21,112	
6	4	0088	軽油	800	98,320	
6	4	0138	ゼンショーエル GT	3130	59,911	
6	5	0114	ゼンショーエル GT	3160	51,616	
6	6	0039	LSA 重油	10100	122,210	
6	8	0039	レギュラーガソリン	2800	49,928	
6	17	0110	LSA 重油	15900	192,396	
6	18	0043	レギュラーガソリン	1600	28,186	
6	20	0039	軽油	1000	122,900	
6	24	0110	レギュラーガソリン	2574	45,334	
6	25	0104	レギュラーガソリン	2250	39,640	
6	29	0057	LSA 重油	14300	173,300	
					(内消費税 10%計)	48,335
					当月お買上計	1,073,988
前月ご請求額	ご入金額	調整額	差引繰越額	当月お買上額	当月ご請求額	
937,682	937,682	0	0	1,073,988	1,073,988	

図2. 燃料の請求書

排出量の算定

- ・ 集計した**使用量**データを**カーボンモニター**に入力し、算定する。
- ・ 算定結果は、カーボンモニターのダッシュボードで確認が可能。



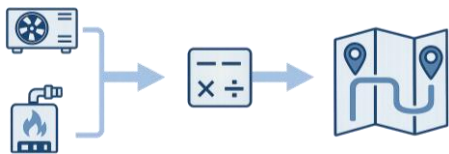
図3. カーボンモニター ダッシュボード抜粋

(参考) 削減計画策定とサポートの流れ

設備情報 + 電力情報入力

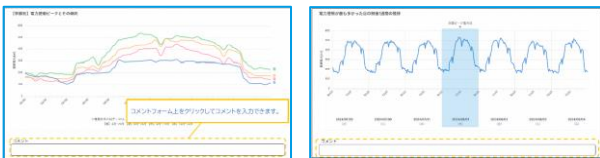
• 設備情報の入力機能

空調・ボイラ等の設備単位で登録し、投資回収年数と削減量を自動算出し、削減計画を立案する。生産設備等も網羅的に登録が可能



• 課題を可視化する30分電力分析機能

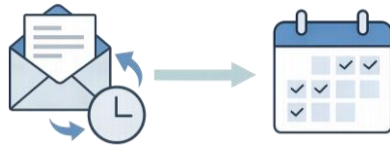
30分値データを活用し、最大需要電力の把握と季節別ピーク分析で自社の運用状況の分析レポートを出力する。



入力率向上と施策実行支援

• 定期的な通知による入力率向上機能

定期的なメール通知により、データの入力漏れを防ぎ、継続的な入力を支援する。



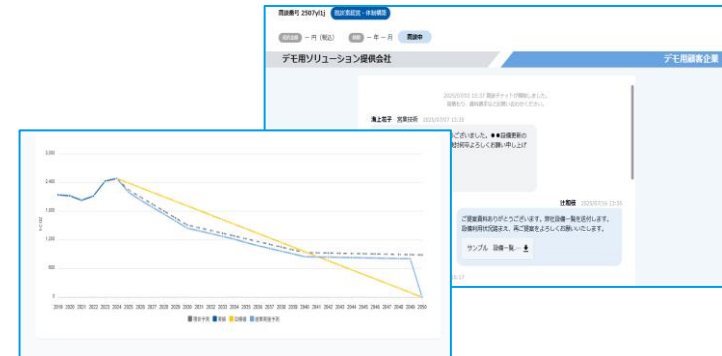
• 2回のオンライン面談によるサポート

初回はシステムの利活用と課題の抽出のための面談（1時間）を実施、約一ヶ月後に入力された可視化データや設備データに基づき具体的な削減施策を含めた情報提供及び実行可能なベンダーを紹介する。

計画策定立案と具体的施策提案

• 施策の実行高めるサポート機能

カーボンモニターでシミュレーションした計画に基づいた施策を提携事業に連携した際には商談状況の進捗を事務局でウォッチし、進捗に影響あれば適宜サポートする。



• 主な特長

: 専門スタッフによるコンシェルジュ支援

• サポート

: 2回のオンライン面談による丁寧な伴走

• 削減実行

: 40社のベンダー網による具体的な導入支援

